公共施設再編のための市民合意形成手法に関する研究（１）
－さいたま市とさいたま市与野本町小学校における取り組み－

正会員　○川島　優太*
同　桂　達也*
同　倉斗　綾子**
同　志村　秀明***

公共施設　複合化　さいたま市
市民参加　合意形成　マネジメント

１．はじめに

１−１．研究の背景と目的

現在、全国的に公共施設の老朽化が進んでおり、築 30 年以上の公共施設が一斉に更新の時期を迎えつつある。公共施設をそのまま更新することは、自治体の財政面から不可能であるため[注1)]、公共施設を再編し、複合化することが見込まれている。

公共施設の再編・複合化は、利用者である市民にとっては、施設までの距離が遠くなるといった利便性の低下を招く恐れがある。一方で施設の複合化を市民参加で検討することで、交流促進や、コミュニティ強化が期待できる。このようなことを念頭において、市民合意形成手法を開発することが必要とされている。

そこで本研究では、さいたま市が取り組んでいる与野本町小学校を中心とする公共施設複合化検討のワークショップ[注2)]（以下：WS）を事例として、公共施設再編のための市民合意形成手法を開発する。まず本稿では、さいたま市とさいたま市与野本町小学校における取り組みを提示する。

１−２．研究の方法

本稿では、さいたま市が取り組んでいる公共施設マネジメントについて文献調査[注3)]にもとづき、取り組みについて提示し、また執筆者等が支援している与野本町小学校を中心とする公共施設複合化の検討の取り組みについて提示する。

１−３．対象地区の概要（図１）

与野本町小学校はさいたま市中央区にある。さいたま市中央区は旧与野市であり、2001 年の合併[注4)]によりさいたま市となった。そのため現在でも与野本町駅周辺には多くの公共施設が集中している。

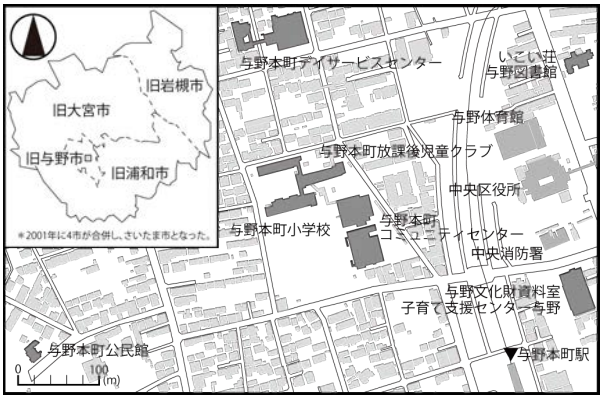

図１　対象敷地

２．公共施設マネジメント

２−１．さいたま市の公共施設の現状

さいたま市は、現在約 1,700 もの施設を保有している。その施設の多くは 1970 年代から 1980 年代にかけて整備されており、築 30 年以上の公共施設が半数以上を占める。

２−２．公共施設マネジメントの内容

公共施設マネジメントとは「ハコモノ三原則・インフラ三原則」[注5)]に基づき施設の現状を的確に把握し、複合化・長寿命化の分類やどの施設を優先して行うのかなどを決め実施していくことである。

２−３．公共施設マネジメントの実施状況と成果物（図２）

平成 22 年度に「公共施設マネジメント会議」が設置され、全体方針やマクロ把握を行った。また、施設の実態把握も行われ、白書の作成や公共施設マネジメントの方針策定へと進み、公共施設マネジメント計画となった。

平成 24 年度からは、白書や公共施設マネジメント計画をもとにアクションプランの策定が始まり、また並行してモデルケースでの検討が行われた。

それら計画・プランは市民周知のために、漫画パンフレットにまとめられた。

３．与野本町小学校を中心とする検討ワークショップ

３−１．複合化対象公共施設

平成 25 年度の複合化の検討では、与野本町小学校にすでに複合化している与野本町コミュニティセンターと放課後児童クラブと、「老人福祉センターいこい荘」と「子育て支援センター与野」が複合化対象となった。平成 26 年度の複合化の検討では、前年度複合化対象の「いこい荘」が外れ、「与野文化財資料室」が追加となった。

３−２．全体のプログラム

平成 25 年度と平成 26 年度にかけて行われた与野本町小学校を中心とする公共施設複合化を検討する WS の全体プログラムを図３に示す。

平成 25 年度の WS では施設見学や平面図でのデザインゲームを行った。施設見学では先行事例の見学と複合化対象候補施設の見学を行われた。平成 26 年度の WS では

Study on the method of civic consensus building for reorganizing public facilities(1)
– Case study on Saitama city and Yonohonmachi elementary school in Saitama city -

KAWASHIMA Yuta, KATSURA Tatsuya
KURAKAZU Ryouko, SHIMURA Hideaki

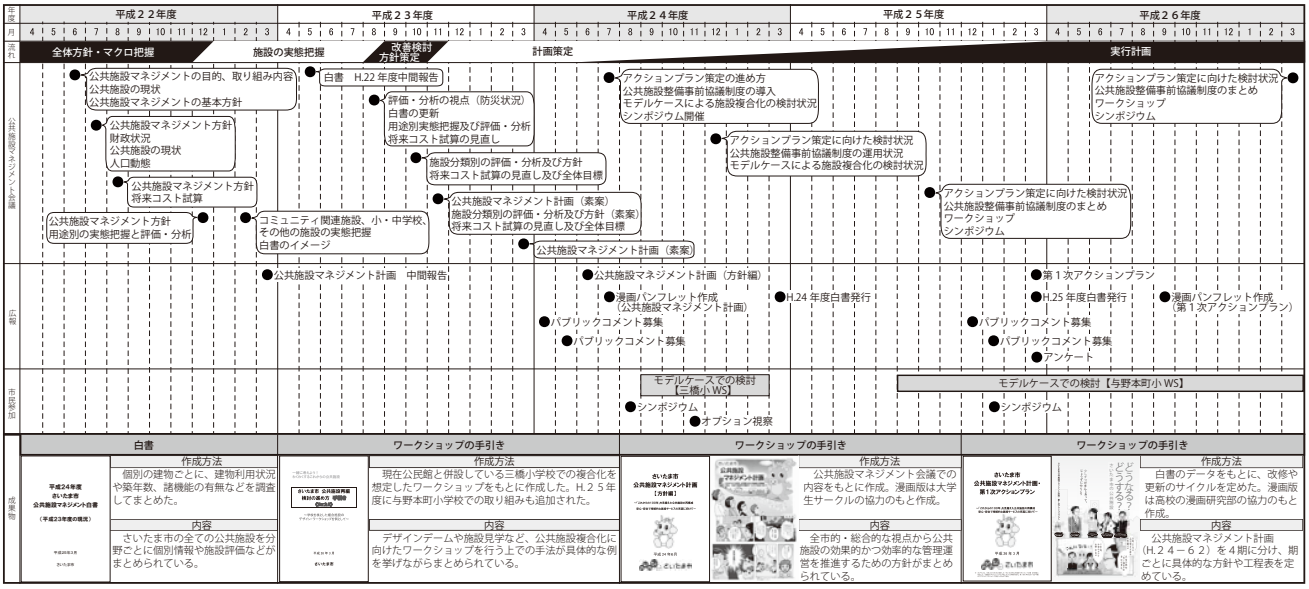

図２　公共施設マネジメント実施状況及び成果物

ワールドカフェ[注6)]や模型でのデザインゲームが行われた。平成 25 年度と平成 26 年度の WS の間には 8 ヶ月の期間が空けられた。検討した案を市民と共有する意見交換会が各年度のプログラムに組み込まれている。

3−3．ワークショップの成果物

平成 25 年度は WS、意見交換会の結果を踏まえて最終的に２案にまとめられた。平成 26 年度は前年度と今年度 WS、意見交換会・模型展示会の結果を踏まえて最終的に３案にまとめられた。

4．まとめ

本研究では以下のことを示した。

・さいたま市公共施設マネジメントでは、公共施設の実態把握、全体方針決定、実行計画の策定という手順をとっている。

・2 年間かけた取り組みでは、施設見学や、カードとパネルを使った WS、模型を使った WS が組み込まれていた。

・デザインゲームを行い、市民がアイデアを出して複合化案を 3 案つくることができた。

注釈

注１）日本 PFI・PPP 協会の行った公共施設更新問題に係るアンケートにおいて、全国の自治体で昭和 40 年〜50 年に建てられた公共施設の大規模改修や立て替えを行うことで財政上の問題が出てくるということが分かっている。

注２）ワークショップ手引きの更新・実際の複合化のモデルケースとして、さいたま市立与野本町小学校を中心とする公共施設複合化の検討を行っている。

注３）参考文献１）〜５）で文献調査を行った。

注４）2001 年 5 月 1 日に、浦和市・大宮市・与野市の 3 市の合併が行われさいたま市となった。その後 2005 年 4 月 1 日に岩槻市も合併して現在のさいたま市となった。

注５）「ハコモノ三原則」とは原則として新規整備は行わず、施設の更新の際は複合化を行い、施設総量を縮減すること。「インフラ三原則」とは現在の投資額を維持し、ライフサイクルコストを縮減し、効率的に新たなニーズに対応すること。

注６）テーブル毎に新参加者へ昨年度の成果を説明し、意見交換を行うことを繰り返した。

参考文献

1) さいたま市：さいたま市公共施設マネジメント白書，2014. 3
2) さいたま市：さいたま市公共施設再編進め方手引き，2014. 3
3) さいたま市：さいたま市公共施設マネジメント計画・第１次アクションプラン, 2014. 8
4) さいたま市：さいたま市公共施設マネジメント計画 2012. 7
5) さいたま市：ワークショップ参加者への配布資料

	日付	プログラム	ツール	写真
平成25年度	第１回　WS [9 月 25 日]	■自己紹介 ■目的の説明 ワークショップ開催の目的などを説明 ■ミニワークショップ 小学校の思い出の絵を描いて発表 ■公共施設マネジメント計画についての説明		
	第２回　WS [10 月 11 日]	■先行事例の視察 先行事例の泰平小・美南小の見学 ■意見交換 しらさぎチーム・サクラソウチームに分かれて感想などの意見交換		
	勉強会 [11 月 11 日]	■勉強会 専門家を招き、先行事例の勉強		
	第３回　WS [11 月 16 日]	■対象施設の見学 複合化対象候補施設の見学 ■問題・再編対象の共有 ロールプレイを行い、各施設の意見交換 ■わくわく探し 複合化の際のわくわくについて意見交換		
	第４回　WS [12 月 2 日]	■複合化対象施設の選定 WS の意見をもとに行政が選定 ■複合化案の検討 平面図でのデザインゲーム	平面カード	
	意見交換 [12 月 26 日]	■小学生や施設管理者と意見交換 複合化案についての意見交換 ■意見交換会（パブリックミーティング） ワークショップ参加者が案を市民に発表		
	第５回　WS [1 月 28 日]	■意見交換会のフィードバック 機能配置案について意見交換を行い、最終的に２案を提示	平面カード	
平成26年度	第１回　WS [9 月 25 日]	■ワールドカフェ 前年度の案に対しての意見交換 ■検討条件の再確認 既存模型を使って、前年度と変更になった条件などを確認	現況模型	
	第２回　WS [10 月 23 日]	■複合化案の検討 平面図・模型でのデザインゲーム	平面カード 積み木模型 (S 1:100)	
	第３回 意見交換 模型展示会 [11 月 30 日]	■意見交換会（パブリックミーティング） ワークショップ参加者が案を市民に発表 ■模型展示会 複合化案の模型展示・説明	積み木模型 (S 1:100)	
	第４回　WS [1 月 22 日]	■意見交換会のフィードバック 市民からの意見を取り入れて、機能配置案について再び意見交換 ■複合化案の利用・運営の検討 ロールプレイで、利用・運営の意見交換	平面カード 積み木模型 (S 1:100)	
	第５回 模型展示会 WS [3月14日]	■模型展示会 複合化案の模型展示・説明 ■模型展示会のフィードバック 市民からの意見を取り入れて、機能配置案について再び意見交換し、３案を提示	計画模型	

図３　ワークショップ全体プログラム

*芝浦工業大学大学院理工学研究科建設工学専攻　修士課程
**千葉工業大学工学部デザイン科学科　准教授・博士（工学）
***芝浦工業大学工学部建築学科　教授・博士（工学）

*Graduate school, Shibaura Institute of Technology
**Assoc.Prof.Depart.of Design, Faculty of Engineering, Chiba Institute of Technology, Dr. Eng.
*** Prof.Depart.of Architecture, Shibaura Institute of Technology, Dr.Eng.